

観峰館夏季企画展

涼をもとめて

— 中国絵画で納涼 —



令和2年6月20日(土)

～ 8月30日(日)

ごあいさつ

このたび、「涼をもとめて—中国絵画で納涼—」と題して、夏季企画展を開催いたします。

年々厳しさを増すように感じる夏の暑さ。各ご家庭でも空調機のお力を借りる機会が多いのではないのでしょうか。しかしながら一方では、地球環境保護の観点から、クールビズなどによる省エネも推奨されています。このようなジレンマを抱えた現状のもと、本展では、視覚を通じて少しでも暑さをしのいでもらおうと、観峰コレクションの中国絵画資料から、涼感を誘う画題の作品を選び出して展示いたしました。

出品作品の内容は、涼しげに泳ぐ金魚などの魚たち、ハスやスイカなど夏の植物や果物、セミなどの昆虫たち、そして滝や流水に囲まれた山中での理想的な生活を描く山水図や人物図などです。さらに、これらの画題には、隠れた吉祥のメッセージが込められている場合もありますので、そこにも注目して鑑賞してもらえればと考えております。

展示について

■ 魚

金魚をはじめ、魚が登場する作品たち。見るからに優雅で美しい姿は、見ているだけで涼感を感じさせてくれます。魚を描くうえでのポイントは、いかに浮遊感と躍動感を表現するかにあるでしょう。

魚のモチーフは、中国でも最も古くに具象化された文様のひとつです。古代において魚は、収穫による豊かさの象徴でした。そのイメージはその後も引き継がれ、現代においても、「魚」の中国語音 (yu) が「余」と同じことから、裕福の象徴とされています。



梅振瀛「藤下金魚図」(部分)



凌虚「金魚図」(部分)



汪亞塵ほか「條魚睡蓮圖」(部分)

■植物

ハス・スイカ・ブドウ・ヘチマなどなど。夏を代表する植物、特に果物を目にすれば、暑い時期ならではの愉しみが思い浮かぶのではないのでしょうか。本展では、ぼかしや淡彩による表現をメインとした、清楚な雰囲気作品介绍します。

植物にも、魚同様にその性質から派生した、めでたい寓意が込められていることがあります。たとえば、実や種を多く付ける果物は、子宝を、蔓を伸ばす植物は、子孫繁栄を象徴します。また、「蓮」の中国語音 (lian) は「恋」に通じ、夫婦和合を暗喩します。



謝公展「荷花図」(部分)



作者未詳「瓜豆図」(部分)



陳衡恪「葡萄図」(部分)

■昆虫

セミ・チョウ・カマキリ・キリギリスなどの夏の昆虫。セミと柳のように、植物とともに描かれることが多く、夏の風景を切り取ったような、懐かしい感覚をあたえてくれます。

昆虫の生態からいえば、たとえばセミは、幼虫から羽化する姿が再生を象徴するといわれています。また、語呂合わせとして、「蝶」(die)は「耄 (テツ・高齢者の意)」で長寿を、「螻蛄」(dang lang)は「当郎 (郎という官職に就く)」で出世を連想させます。



劉徳六「柳蝉花魚図」(部分)



王雪涛「采瓜群虫図」(部分)



姚鍾葆「花虫図」(部分)

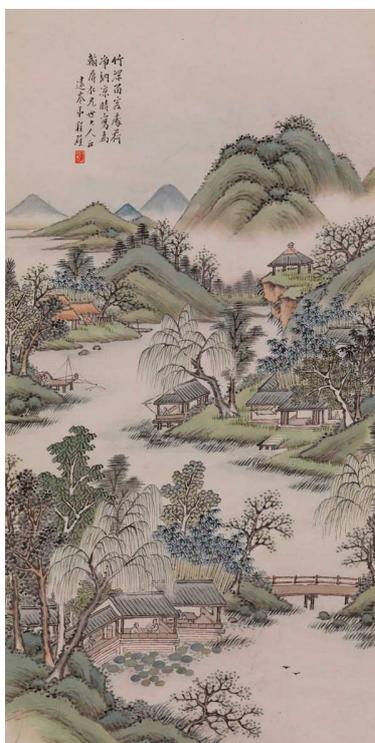
■山水

人里離れた山奥で、静かに暮らすという理想を描いた山水画。滝や小川に囲まれたその生活は、都会の暑苦しきの対極にあるものでしょう。

山水画は、実風景の描写ではなく、理想郷のイメージを可視化したものです。ですので、到底行き着くことのできないほど険しい山中に建つ家屋や、見渡す限り俗世間の気配のない隠棲地など、誰も見たことのない風景が描かれます。自分もその中に住んでいるんだと空想しつつ鑑賞してみてください。



陳嘉楷「瀑布山居图」



程稔「杜甫詩意山水图」



金純「松嶺觀瀑图」(部分)

■人物

昔の人も、夏の暑さに苦しめられていました。現代のように空調設備のない時代には、郊外の木陰や水辺で納涼することが一番の贅沢だったことでしょう。

人物画に描かれるのは、中国の伝統的知識人である文人であることがほとんどです。人物画にはほかにも、昔の故事に取材したものも含まれています。



賀天健「桐陰覓句図」(部分)



沙佐「桐蔭消暑図」(部分)



王連「人物避暑図」(部分)